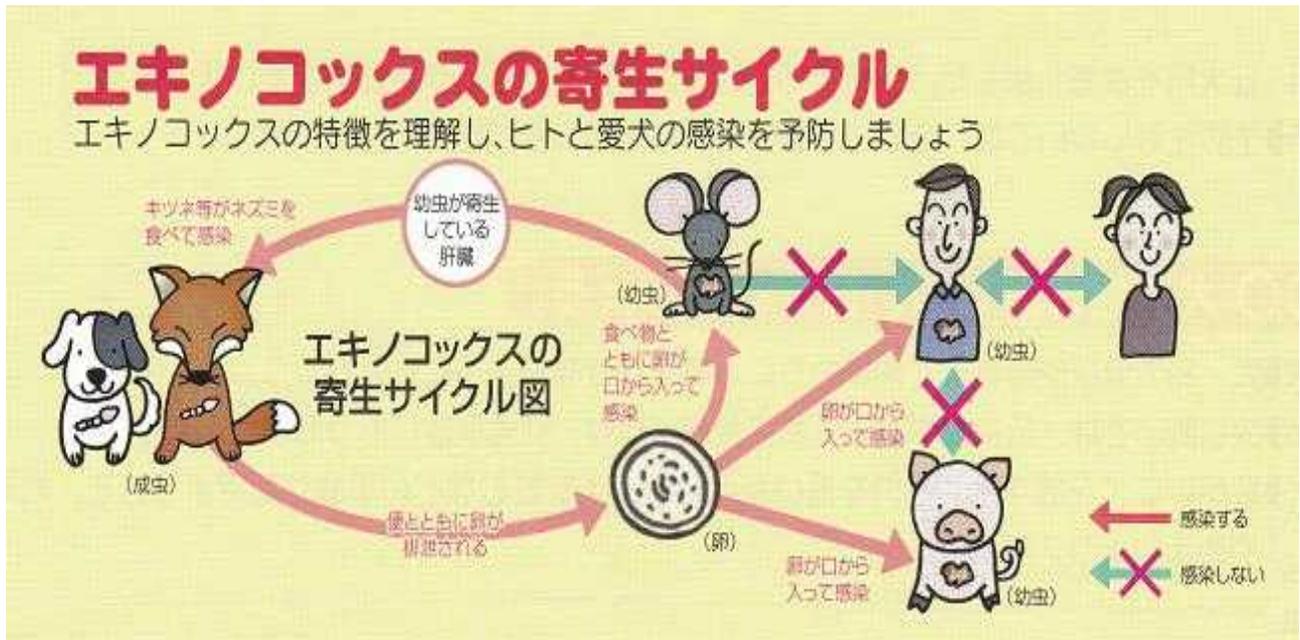


エキノкокスの寄生サイクル



- ・エキノкокスという寄生虫には、卵、幼虫、成虫の3つの発育段階があります。
- ・成虫のときはキツネやイヌの体内に、幼虫のときは野ネズミの体内に寄生して生活しています。卵は成虫から生み出され、キツネやイヌの糞とともに出てきます。その卵が何かの機会にヒトの口に入ると、野ネズミと同じように幼虫がヒトの体内に寄生することになります。
- ・ヒトの口から入った卵は、腸の中で孵化し、血管を通過して肝臓や肺、時には脳や骨などに入りこみ、袋の様な幼虫になって増殖を始めます。これがヒトのエキノкокス症です。
- ・イヌにエキノкокスが寄生するのは、エキノкокスの幼虫が寄生しているネズミを食べたときだけです。イヌにエキノкокスが寄生すると、ヒトとの接触が多いので、キツネより危険となります。

検査によって感染の有無を早く知り、幼虫が大きくならないうちに取り除くことが大切です。

手洗いの励行は、エキノкокス症の予防だけではなく、多くの病気の予防にもなります。予防衛生の原点に帰って、手洗いの励行につとめましょう。